

様式第二号の十三(第八条の十七の二関係)

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書		2022年6月6日
都道府県知事 三日月 大造 殿		
提出者：イサム塗料株式会社滋賀工場 住 所：滋賀県草津市笠山8丁目2-1 氏 名：取締役滋賀工場長 角井 和夫 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号：077-562-1360		
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。		
事業場の名称	イサム塗料株式会社滋賀工場	
事業場の所在地	滋賀県草津市笠山8丁目2-1	
計画期間	2022/04/01～2023/03/31	
当該事業場において現に行っている事業に関する事項		
①事業の種類	製造業	
②事業の規模	製品出荷額 32億 8035万円	
③従業員数	107名	
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	引火性廃油（廃塗料・廃溶剤） ↓ 業者による中間処理 （焼却） ↓ 残渣 （セメント原料） 洗淨作業 ↑ 廃溶剤 ← ↓ 自社にて蒸留→再利用 ↓ 残渣 ↓ 業者による中間処理→（燃料化及び焼却） ↓ 残渣（セメント原料）	

(第2面)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

責任者：工場長
 主管部門：生産管理部
 窓口：環境安全課
 関連部門：生産管理部製造課・技術部・受注センター

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（2021年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	
	排出量	672.576 t	t
	（これまでに実施した取組） 廃溶剤の有価買取契約		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	
	排出量	654.500 t	t
	（今後実施する予定の取組） 自社の蒸留設備による蒸留は継続する タンク洗浄に使用する洗浄溶剤の削減に取り組む ※廃棄物処理業者への全処理委託量の目標は170.000 t とする		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 自社で蒸留できる廃溶剤は、できる限り自社で蒸留する
②計画	（今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 上記取り組みを継続するとともに、蒸留設備の稼働を安定させる

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（2021年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	
	自ら再生利用を行った 特別管理産業廃棄物の量	489.600 t	t
	（これまでに実施した取組） 蒸留設備の能力維持のため、必要に応じてメンテナンスを実施		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	
	自ら再生利用を行う 特別管理産業廃棄物の量	484.500 t	t
	（今後実施する予定の取組） 蒸留塔の運転目標を年間220日から年間190日に変更するとともに、製造現場で使用する洗浄溶剤の量を削減することで、廃棄物発生の削減につなげる。		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（2021年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	
	自ら熱回収を行った 特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した 特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	（これまでに実施した取組） なし		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	
	自ら熱回収を行う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する 特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	（今後実施する予定の取組） なし		

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
①現状	【前年度（2021年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	
	自ら埋立処分を行った 特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
	なし		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	
	自ら埋立処分を行う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	なし		
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（2021年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	
	全処理委託量	182.976	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	182.976	t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	68.850 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	114.126 t	t
	(これまでに実施した取組)		
	廃溶剤を有価物として売却		

(第5面)

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	170. 000 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	170. 000 t	t
	再生利用業者への 処理委託量		t
	認定熱回収業者への 処理委託量	64. 600 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	105. 400 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	廃棄物としての引火性廃油の発生量が増加する見込み		
電子情報処理組織の使用に関する事項	【前年度】（2021年度）実績		
	特別管理産業廃棄物 排 出 量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	182. 976t	
	(今後実施する予定の取組等) 2020年3月から廃棄物処理法に基づく電子マニフェストを導入しております。		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トンを超える者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。